



セチュラの風だより



2020年 6月 第15号

新たな教育手法を学ぶ！



西島 将 (Nishijima Tadasu)

2020年も、はや半年が過ぎようとしています、皆さんいかがお過ごしでしょうか。

今回は、3月上旬に後輩隊員の配属先(セルナンブピウラ)で4日間実施された研修について紹介します。現地の大学生達とパペットマペット(人形)を使った劇場型の教育手法を学びました。実際に、スポンジを加工しーから人形を作成し、劇の構成を考え練習し、最終日には子供達の前で実演しました。



4日間の研修で、大学生達と一緒に人形を使った劇場型の新たな環境教育手法を学びました。

その中で、毎日1人5分程度の自己紹介がありました。それぞれ趣味やコロナウイルスの影響等について意見を発表します。その後、みんなで意見交換をします。互いを知る事を大切にするペルーの文化を知りました。

研修で様々な得がたい経験をし、私自身の考え方が変わる契機になった事を嬉しく思っています。

最終日には、州都ピウラの中心にある広場で子供達に向けて実演しました。

私達のチームは、「海の生物達を守るために私達ができる事は」をテーマに演じました。新しい教育手法を学び実践し、子供達の反応からこの教育法の手応えを感じました。今後同僚達を巻き込み、研修の学びを共有したいです。

コロナウイルスが落ち着き、またペルーで仲間達と一緒に環境教育ができるのが楽しみです。



川で環境教育をやってみた

アマゾンでの研修で、外に出向いて教えるフィールドワーク手法について学びました。実際に2月にセチュラ市場の近くの川で、子供達と親御さんに環境教育を実施しました。

落ちていたゴミを拾い、それらが土に還るまでに何年かかるかをクイズ形式で学びました。同内容を教室でやるよりも、子供達の反応が違ふ事に驚きました。また、お母さん達に家庭でのゴミの分別方法も啓発しました。今よりも綺麗になったセチュラを、将来訪れるのが楽しみです。

